

四門会

第 24 号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言	肥塚 泉	3
会長あいさつ	岩武博也	4
医局長あいさつ	春日井 滋	5
新入医局員あいさつ	稲垣太朗	6
	大原章裕	7
	小野瀬好英	8
	神川文彰	9
	川島孝介	10
	四戸達也	11
医局開講 45 周年記念	岡田智幸	12
肥塚教授還暦パーティー	宮本康裕	15
四門会親睦会を終え	服部康介	18
第 18 回耳鼻咽喉科システム・ナビ研究会	谷口雄一郎	20
耳鼻咽喉科臨床学会賞受賞	春日井 滋	21
日本宇宙航空環境医学会学会賞	北島明美	22
医局報告	医局構成	23
	関連病院連絡表	24
専門外来紹介		
めまい外来	望月文博	25
頭頸部腫瘍外来	三上公志	26
喉頭・音声・嚥下外来	春日井 滋	27
副鼻腔・アレルギー外来	齋藤善光	28
聴覚外来	谷口雄一郎	29

関連病院だより

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	岡田智幸	30
川崎市立多摩病院	晝間 清	31
NHO 横浜医療センター	佐々木祐幸	32
横浜総合病院	田中泰彦	33

OB 通信

佐藤成樹	34
鈴木 毅	35
菱澤えり子	37
齋藤 晋	38
鈴木一輝	39
山口央一	41

第 20 回四門会理事会議事録	42
第 20 回四門会 写真	44
会則および編集後記	45

巻頭言 「2016年雑感」

肥塚 泉

2016年は医局にとっては吉事とイベントの多い年であった。まず、吉事であるが、昨年度の春日井 滋君、北島明美君に続いて今年度も、阿久津征利君が日本めまい平衡医学会優秀論文賞（臨床部門）、そして齋藤善光君が、第68回日本気管食道科学会（会長：東京医科歯科大学医学部消化管外科学・河野辰幸教授、東京）、望月文博君が、第75回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会（会長：近畿大学医学部耳鼻咽喉科・土井勝美教授、大阪市）で優秀ポスター賞を受賞してくれた。そして今年度は、稲垣太朗君、大原章裕君、川島孝介君、神川文彰君、小野瀬好英君、四戸達也君の、6人のフレッシュマンが入局してくれた。イベントとしては耳鼻咽喉科学教室の45周年記念祝賀会を7月2日に、新百合ヶ丘駅前のホテルモリノで開催させていただいた。日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会の齋藤 彰部会長、川崎市耳鼻咽喉科医会の藤岡 治医会長、本大学の明石勝也理事長のご臨席をいただき、盛会裏に終えることができた。そして、私事で誠に恐縮ではあるが、私の誕生日である7月15日に、同じく新百合ヶ丘駅前のホテルモリノで医局員たちが、“還暦の会”を開いてくれた。“赤いちゃんちゃんこと帽子”を着用するのは少し恥ずかしかったが、教授職としてのあと5年、“医局員たちのためにもうひと頑張りしなくては”、との決意を新たにさせる、嬉しいながらも私にとって、非常に刺激的な会となった。現在の医局では医局員たち全員、若い先生たちを育て上げようという機運が満ち溢れている。そんな医局員たちを見ていると、本当に頼もしく、こんな良いムードが、再びこの医局に訪れることなど、数年前までは、想像だにできなかったことが思い出される。四門会OBの先生方の厚いご支援、そして、現有医局員たちの努力に、この場を借りて感謝させていただく。来年度も、数多くのフレッシュマンが入局してくれるとのことである。孫の成長を見守る、おじいちゃんやおばあちゃんたちのような気分に、今しばらくは浸ることができそうである。



会長あいさつ

岩武博也

四門会の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。皆様には日頃より、四門会発展の為に格別のご高配を賜り、誠に有難く心より厚く御礼を申し上げます。



今年から専門医制度が変更され会員の先生方も大変混乱しているのではないのでしょうか。5月に開催された名古屋での日耳鼻総会に出席してまいりましたが、朝から会場入り口に長蛇の列。まるで新型 iPhone 発売初日かと勘違いする程でした。そして、講習会会場に入りきれないと次の講習まで外で1時間以上も並ぶという異常事態。その間の一般講演の会場はガラガラという本来の学会の姿ではありませんでした。いつもの学会参加とは違う疲れ果てた1日でしたが、同門会として親睦会を開催し副会長である服部先生の地元お勧めの鶏鍋、櫃まぶしを堪能し疲れを癒す事ができました。今回初の試みでしたがOB、医局員併せて20名以上がご参加してくださりととても楽しい一時を過ごす事ができました。今後も機会があれば企画してまいりたいと考えております。

そして、7月には教室開講45周年記念パーティーが開催され、歴代主任教授をはじめご来賓の方々より教室創世期の歴史を色々と拝聴する事ができこれから50周年、60周年と未来に向かって更なる教室の発展を同門会として物心両面で協力して行かなければならないと再確認いたしました。昨年度より同門会としても新入医局員獲得に向けてバックアップをはじめましたが幸いにも教室員が増えつつあり明るい未来が見えてまいりました。今後も総会だけではなく多くの会員の先生方にご参加いただき若い教室員との交流を深める事が出来るような企画を考えてまいりたいと思っております。

さて、会員の皆様も既に御存知のことと思いますが肥塚泉先生が来る2018年6月に開催される第80回耳鼻咽喉科臨床学会の会長に決定いたしました。この学会は第55回の時に竹山勇先生が会長を務められており、実に25年振りに当教室で2回目の主催という事になります。今回も盛大に開催されかつ有意義な学術講演会となりますよう四門会としても最大限の協力をしていかねばならないと考えております。

最後になりましたが、会員の皆様の今後一層のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げますと同時に、四門会のさらなる発展に向けてご支援ならびにご協力をお願い申し上げます。

医局長あいさつ

春日井 滋

今年度で医局長 2 年目となる春日井です。昨年度の四門会での挨拶で医局長になるにあたり、「シゲノミクス」と題して3つの目標を掲げました。3つのとは「臨床・研究・教育」です。その成果についてご報告します。

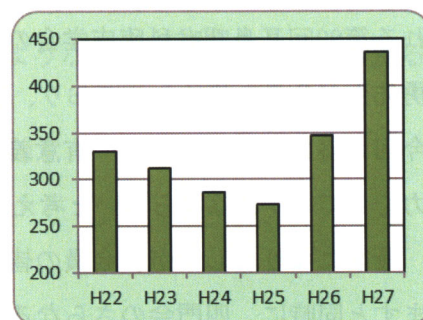
まず臨床ですが、具体的には手術件数や売り上げとなります。ここ数年、手術件数は下図のごとく徐々に増加傾向にあります。内容としては耳手術および鼻手術が特に増加しました。売り上げも手術の増加に伴い上がり、病院側からも高く評価していただいております。また紹介患者を増やす取り組みとして、今年の5月に前年度2件以上患者をご紹介いただいた近隣の開業医や市中病院へ平成27年度の手術内容や件数を添付したお礼の文書を送付しました。そのほか紹介状の返信を充実（速やかに返信を書く、入院および手術をした患者について経過報告するなど）させることを医局員みんなで話し合いました。

次に研究ですが、具体的な目標として2年間に最低で本院4本、西部1本、多摩1本の論文提出を掲げました。医局員みんなの頑張りで、昨年4月から現在（10月）までで目標を大きく上回る10本（うち英文1本）の原著・症例報告が掲載されました。今年行われた45周年記念でもOBの先生方から「最近論文でマリアンナの名前を見る機会がふえたね」と言っていただき嬉しい限りでした。

最後に教育です。学生教育では耳鼻咽喉科に興味を持ってくれるように指導しているつもりですが、自分自身、臨床業務などに追われるとつい疎かになりがちです。今後学生アンケートなどを参考にしながら改善していきたいと思います。新入医局員獲得については大戸先生（7月に慈恵へ戻りました）の勧誘力で今年度は6名も新人を得ることができました。来年度入局予定者も現在（12月）のところ5名おります。非常に嬉しく思うのと同時に、後輩を育てる責務を感じます。また同門会より勧誘費を頂き大変感謝しております。本当にありがとうございます。

来年度から医局長は三上先生に交代しますが、医局がより発展するよう努力していきたいと考えております。これからも四門会の先生をはじめ諸先輩方、ご指導ご鞭撻よろしく申し上げます。

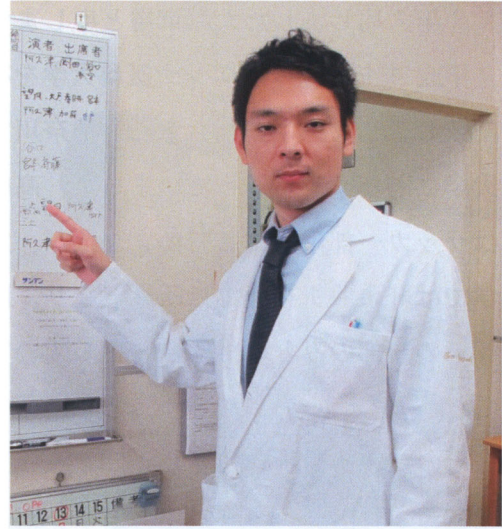
【手術件数】



新入医局員あいさつ

稲垣太朗

今年度、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科教室に入局させていただきました稲垣太朗と申します。私は聖マリアンナ医科大学卒業後、大学病院にて初期臨床研修をさせていただきました。もともと外科系に進もうと考えておりましたが初期研修期間に耳鼻咽喉科をローテーションし、頭頸部領域に係る幅広い疾患を扱う耳鼻咽喉科に興味を抱きました。また、耳鼻咽喉科研修中に、喉頭癌を患っていた叔父が闘病の末、逝去したことも私の進路を決める上で大きなきっかけの一つとなりました。



今年度、卒後3年目の新入局者数は6名となり、本学の他科と比較してもその数は多く、またその入局者全員が聖マリアンナ医科大学の卒業生であるという点は非常に特徴的だと考えております。しかし、同期の数が多いが故に、自分の考えや個性が薄れてしまう可能性もありますが、それぞれを尊重しあい、お互い切磋琢磨できる関係を築いていきたいと考えております。

今後は臨床を始め、多くの学会活動や研究、学生の教育など尽力していきたいと考えております。

まだまだ至らぬ点ばかりではありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新入医局員あいさつ

大原章裕

今年入局しました大原章裕と申します。
平成26年に聖マリアンナ医科大学を卒業致しました。生まれも育ちも神奈川で大学にも実家から通っていました。高校はサッカー部に所属していましたが、大学では紆余曲折を経て無所属となり、同学年の一部のみとの付き合いをしていました。



そのため初期研修医であった時は、どの科を研修しても存じ上げない先生ばかりで、人見知りも相まって打ち解ける間もなく終わってしまうことが多かったです。

しかし耳鼻咽喉科の先生方は最初から温かく接してくださり、居心地がよかったもので初期研修が終わった現在は入局し、籍を置かせていただいています。

今はまだどの分野を専門としていくかは決めていませんが、疾患が多岐にわたる所も耳鼻咽喉科の良い所の一つであるので、楽しみながら決めていきたいと思えます。

未熟な所も多く反省の多い日々ですが、一日でも早く諸先輩の皆様のように、耳鼻咽喉科医として愛ある質の高い医療を提供できるよう尽力していく所存です。

これからもお力添えいただくことが数多くあると思えますが、何卒宜しく願い申し上げます。

新入医局員あいさつ

小野瀬好英

新入局員の小野瀬好英と申します。

出身地は茨城県で、鹿嶋市にある清真学園高校出身です。

聖マリアンナ医科大学を卒業後、本院にて初期研修を修了し、今年度耳鼻咽喉科に入局させていただきました。

研修医が始まった当初は耳鼻咽喉科をローテーションする予定ではなかったのですが、麻酔科研修中や院内にて先生方に話しかけていただき耳鼻科に興味を持ちローテーションすることとなりました。

初期研修中は、手術から外来まで幅広く勉強させていただき、どんどん耳鼻科に興味を持っていきました。

私は医局の雰囲気が好きで、教授を始め上級医の先生から若手の先生方まで一つになって手術や診療に取り組み姿勢に大変感銘を受け、入局を決めました。現在は扁桃摘出術などの執刀をさせていただいたり、上級医の先生方と手術に取り組んだり、外来、病棟業務などをやらせていただいています。

多摩病院の人員も4人に増え、一つにまとまって頑張っていこうと奮闘しているところです。

これからもご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。



新入医局員あいさつ

神川文彰

この度、耳鼻咽喉科医局に入局させていただきました平成 26 年度聖マリアンナ医科大学卒業の神川文彰と申します。研修開始当初は小児科に入局する予定でありましたが、研修期間に耳鼻咽喉科を研修させていただき、その際指導していただいた先生方に耳鼻咽喉科の面白さを教えていただき入局を決めました。現在、本院にて病棟・外来業務を中心に、多くの先生方にご指導いただきながら、少しずつではありますが学んでいる最中で



あります。また、今年は同期入局者が 6 人と多くの同期に恵まれ、刺激を受けつつ充実した後期研修医生活を過ごさせて頂いています。

まだまだ勉強不足で多くの方々に迷惑をお掛けしておりますが、少しでも皆さんのお役にたてるよう頑張っていきたいと考えています。

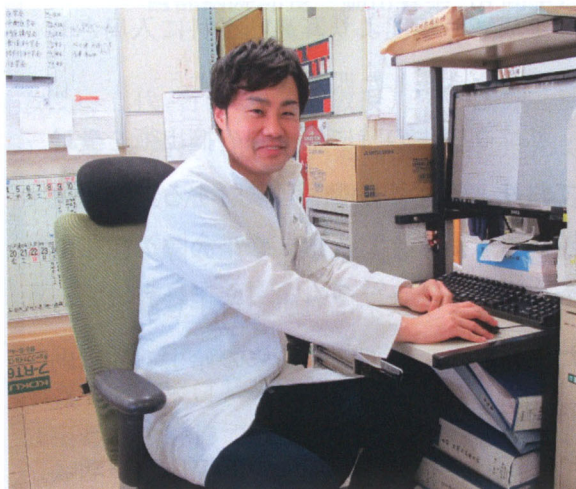
日々成長するよう精進いたしますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

新入医局員あいさつ

川島孝介

この度入局させて頂きました川島孝介と申します。

学生の頃から糸結びや縫合が大好きであり、特に細かい手術手技を必要とする外科への入局を考えておりました。父親が皮膚科医でもあることから、当初は形成外科医になることを考え研修生活を送っておりましたが、自分自身の中でじっくりくるものがなく、入局先や研修ローテーション



先に悩んでおりました。研修医として麻酔科をローテーションしていた際に、耳鼻咽喉科の術中管理をする機会がありました。その際、術野を覗かせて頂いたところ耳や鼻、頭頸部領域の細かな手術手技や話しかけて頂いた先生方の雰囲気や優しさに魅了され、翌日には耳鼻咽喉科へのローテーション変更届けを提出していました。それ以来、耳鼻咽喉科が急性期疾患、腫瘍、めまいと非常に多岐にわたり興味深いことを先生方に教えて頂き、自分自身の中でも求めていたものはこれだと強く感じたため、入局を決めました。

現在は頭頸部班に所属し、病棟・外来業務・手術にて諸先生方の熱く・優しいご指導を頂き、同期6人で助け合いながら大変充実した後期研修医生活を過ごさせて頂いております。

まだまだ未熟であり諸先生方にご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、日々成長できるよう精進して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

新入医局員あいさつ

四戸達也

平成 28 年度より耳鼻咽喉科に入局させていただきます四戸達也です。

私は高校生の時に扁桃腺の摘出術を受けており、元々耳鼻咽喉科に対する興味は少なからずありましたが、学生の際の臨床実習を通じて手技系に対する苦手意識があった関係から、初期臨床研修の始まる前は内科系を考えておりました。

しかし、初期臨床研修で実際に耳鼻咽喉科をローテーションしてみて、扁桃腺摘出



術の執刀を始めとする手術を経験し、手術手技の楽しさも感じることができ、外科系に対する興味が沸いてきました。また、手術のみならず感染症や難聴などの内科的要素もあり、元々内科系も考えていた自分にとっては外科的側面と内科的側面をもつ耳鼻咽喉科に対する興味が強くなりました。

また、耳鼻咽喉科では医局員同士の雰囲気良く、どの先生方も不明点・分からない点があれば相談しやすく、丁寧に指導していただいております。以上のような点において今回、入局させていただきます。

まだまだ未熟者ではありますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科 開講 45 周年

-2016 (平成 28) 年 7 月 2 日土曜日 新百合ヶ丘 ホテル モリノにて開催-

西部病院部長 岡田智幸 (8 回生)

初代 主任教授 故荻野洋一 (形成外科名誉教授)、二代 竹山 勇名誉教授、三代 加藤 功客員教授、大橋 徹客員教授、そして四代 (現) 肥塚 泉教授 (5 回生) と着実に前に進んで発展を遂げている我が耳鼻咽喉科学教室を紹介させていただく機会を得ました (図 1- 5)。残念ながら、故荻野教授の当教室開講当時の詳細は、ご紹介できませんでしたが、荻野教授のいわゆる「神の手」による小耳症手術患者さんを拝見する機会が時折ありますが、それは先生の偉大さに触れる瞬間でもあります。

来賓の明石勝也理事長、斎藤 等 神奈川県地方部会長をはじめ、諸先生方から、ありがたいお言葉をいただくことができ、改めて、我が教室の一員であるという誇りを感じております。

私の教室紹介の講演には、中々もり込められなかったエピソードを紹介します。

故荻野教授 (8 回生学年担当教授)、竹山教授には、国家試験成績と新設医大教授の苦悩を、加藤教授には最後の運営委員長 (現理事長と同格名称) としての日本平衡神経科学会改革と日本めまい平衡医学会への名称変更の苦悩、肥塚教授には、新設医大卒業生である苦悩をお聞きしております。

開講 40 年を過ぎ、ついに当教室に希望の光が与えられました。2012 年第 113 回日耳鼻総会 (新潟) において、肥塚教授は、日耳鼻理事に選出されたのであります (肥ちゃんが理事に成ったよと当教室 0B の高橋 姿 新潟大学学長 (図 6) からお聞きしたときは感激しました。図 7、今期で肥塚教授は日耳鼻理事三期めとなります)。そして、我が同門会の名称である「四門会」の所以 (図 8) のごとく、慈恵医大から谷口雄一郎准教授、都立駒込病院 (千葉大) より晝間 清准教授を迎えることができました。

益々、当教室の発展と躍進を祈念し、教職員一同、身を引き締める目的で、我が教室心得 (図 9) を再読しようではありませんか!

最後に、写真をご提供いただいた 2 回生大高詳一郎先生ならびに 6 回生荻野 純先生に感謝申し上げます。懐かしのスナップから (図 10) では、当教室黎明期竹山教室時代の 1 回生 故 古野隆之先生、4 回生 故 中島博昭先生、学会などでもめったにお会いできない大竹 英夫先生、戸田行雄先生、2 回生大高詳一郎先生、5 回生五島可喜先生、6 回生 (旧姓井上) 馨子先生など、名物先生が写っていらっしゃいます。

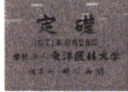
参考資料

1. 岡田智幸. 全国医科大学研究室めぐり 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室. 東洋薬事法 5 月号 vol. 32 No. 8 (平成 3 年 5 月 1 日発行) pp. 13- pp. 15
2. 岡田智幸. 教室紹介 聖マリアンナ医科大学医学部耳鼻咽喉科学教室. 美薔 2006;106:4-8

初代 故 荻野洋一 教授

1971年4月 新潟大学耳鼻咽喉科より
東洋医科大学第一号の教授
として東横病院に赴任
1973年4月 呼称変更、聖マリアンナ医科
大学形成外科学教授兼務
1976年4月 形成外科学主任教授専任

日本形成外科学会理事等
学位論文は、「聴神経腫瘍の実験的研究」



6回生 荻野 純 先生より

**第二代 竹山 勇 主任教授
副院長**

1976年5月 静岡赤十字病院部長より赴任。
マリアンナで最も広い教授室の所有者とな
る(新潟大卒)。
インターンを現在の東京医療センター
(国立東京第二病院)で修了された。

静岡赤十字病院部長時代を 本学産婦人科主
任教授 故 南宮 卓先生と共に過ごされている。

第12回日本頭頸部腫瘍学会会長
第55回耳鼻咽喉科臨床学会会長
第50回日本平衡神経科学会会長

Barany Society Regular Member

「みみ・はな・のどの病気」等 著書多数。

新潟大学同期生には、
山形大学故 小池吉郎名誉教授
富山医科薬科大学故 水崎敏理名誉教授
がおられる。



東洋薬事法 5 Vol.32 No.8
平成3年5月1日発行より

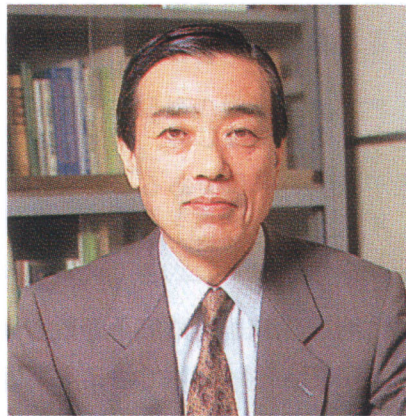
第三代 加藤 功 主任教授

1987年4月 山形大学より赴任(新潟大卒)
1995年4月 主任教授就任

第58回日本平衡神経科学会会長
後に、「日本めまい平衡医学会」と呼称変
更し、組織改革にご尽力された最後の運営
委員長(理事長)。

Barany Society Regular Member

神奈川めまいフォーラムを創設



東洋薬事法 5 Vol.32 No.8
平成3年5月1日発行より

大橋 徹 教授(西部病院部長)

1989年4月 筑波大学から赴任(信州大卒)

世界に先駆けて、ヒトの幅電図の記録に成
功した筑波大学吉江信夫教授グループの
一員(このグループが、VEMPの基礎実験
を行っていたことは、知られていない)。

大橋先生も静岡赤十字病院部長を経験さ
れている。

昨年度の四門会賞受賞。



東洋薬事法 5 Vol.32 No.8
平成3年5月1日発行より

**第四代 肥塚 泉 教授(5回生)
(本学卒業生初の臨床系教授)**

1995年4月 大阪大学より赴任
(大阪大学大学院学位記番号:3387)
2000年4月 教授

横浜市立大学耳鼻咽喉科客員教授
JAXA 招聘研究員
新設医大出身者として、初の日耳鼻理事
神奈川県地方部会 副部会長

神奈川めまいフォーラム代表世話人
第51回日本平衡航空宇宙医学会会長
第73回日本めまい平衡医学会会長
2017 IFOS (Paris) Vice-President
第80回耳鼻咽喉科臨床学会会長予定

Barany Society Regular Member

大阪大学同郷生として、
徳島大学 武田憲宏教授(大阪大学卒)
近畿大学 土井善夫教授(山口大学卒)が
おられる。

地域連携の会として
耳疾患懇話会
Neuro-Otology研究会 等を主催している。

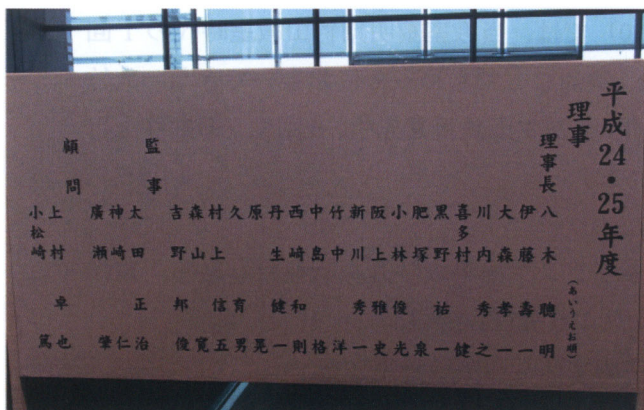


**当教室OB新潟大学長 高橋 姿 教授と共に
-第117回日耳鼻総会(名古屋)にて(左筆者)-**



当教室同門会の名称

- 「四門会」と称す。
- 1988(昭和63)年に命名された。
- 竹山主任教授就任以来の教室のモットーである
耳・鼻・咽・喉の四部門に精通し、「四門を開(ひら)
く」、すなわち、書経、舜典のごとく、都(当教室)の
東西南北の門をひらいて、多くの賢人を招き、学問
の理想と奥義に達しようと日夜努力・実践しようとす
るものである。



教室心得

先輩を敬い後輩を慈しみ
 今日あることを感謝し共に助け
 合い励まし合いて人の短を挙げず
 己れの至らざるを求め病める人には
 労りと優しさと慰めを与え互に
 誠と友愛と礼節を保ち功を
 労りと優しさと慰めを与え互に
 誠と友愛と礼節を保ち功を
 あせらず着実な努力と万全を期し
 幅広い良医の育成に心掛け
 医学の発展と地域福祉に
 力を尽したい。

聖マリアンナ医科大学
 耳鼻咽喉科学教室

懐かしのスナップから



2回生 大高詳一郎先生より

肥塚 泉教授 還暦パーティー

宮本 康裕

平成 28 年 7 月 15 日に、ホテルモリノにて肥塚夫妻をお迎えして、医局員でささやかではありますが肥塚先生の還暦パーティーを行いました。7 月 15 日は、肥塚先生の誕生日であり、本当の還暦祝いの日となりました。

本年は、川崎市立多摩病院の晝間先生を始めとし、新卒の後期研修医 6 名（稲垣先生、大原先生、小野瀬先生、神川先生、川島先生、四戸先生）の 7 名の先生を迎えることができ、まさしく記念すべき節目の年となりました。研修医制度が変更になってからは、なかなか今までの様に、待っていても人が入ってくるような時代ではなくなり、医局員もどうすれば聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の魅力を伝えることができるのか、試行錯誤しながら悩みの時を過ごし、医局員が減少する中で頑張ってきました。

阿久津先生が先陣をきって、BSL の学生指導カリキュラムを練り直し、プレテストやポストテストを国家試験の過去問のストックの中から 10 問選択する複数のパターンを作り、その過去問をしっかりと学生に解説をすることにより、より学生にとって有意義な BSL であったと印象づけることができるようになりました。それに伴って新しく始まった 6 年生の選択式臨床研修（4 月・5 月の 4 週間 2 クール）で多くの人が耳鼻科を選択希望し、回ってきてくれるようになりました。

また、3 年前に慈恵医科大学から谷口先生を迎え臨床面でも大きく底上げすることができ、臨床研修の面でも大きなアドバンテージを得ることができました。また、出向という形ではありますが、加藤先生、大戸先生が学生指導や医局員勧誘のムードメーカーとなり、大きく貢献してくれました。

還暦の節目の年にこういった現象が起こることが、やはり肥塚先生は何か持っている人なんだなと改めて思うわけです（笑）

肥塚先生のこれまでの業績は改めて紹介するまでもなく、めまい平衡のみならず航空宇宙の領域においてトップランナーであることは周知のことと思います。それをおいても凄いと思うことは、日本耳鼻咽喉科学会の理事に新設医学部で初めて、また神奈川県地方部会としても初めて選出されたこと、また本年見事 3 期目も務めることが決まったことは、医局員としても誇り高いことと考えています。

還暦パーティーの締めくくりの挨拶で、まだこれからやりたいことについて眼を輝かせながらお話しされる肥塚先生の姿は、まだまだエネルギーに満ち溢れていて、とても還暦を迎えた姿ではありませんでした。これからも医局員一同で肥塚教室がますます盛り上がっていただけるように頑張っってその背中を追いかけていきたいと思っています。

追記：赤い贈り物は、ご本人はきっと赤い液体を望んでいた（？）かもしれませんが、赤いネクタイを贈らせていただきました。ちゃんちゃんこが意外と似合っていたのは不思議な光景でした。





四門会親睦会を終えて

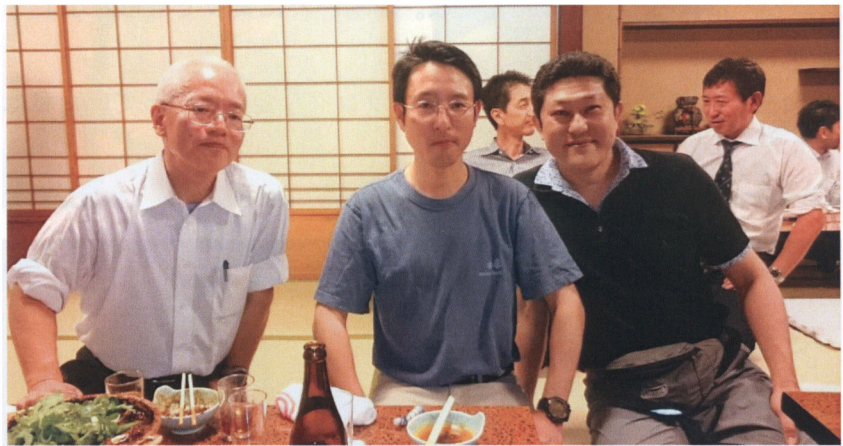
服部 康介

去る平成 28 年 5 月 19 日、四門会主催による親睦会が第 117 回日本耳鼻咽喉科学会・総会の開催に合わせて名古屋で開かれました。会場は岡田智幸先生お勧めの鰻とかしわ専門料理『宮鍵』です。参加者は総勢 22 名。皆で差しつ差されつ杯を重ねながら名古屋名物「鶏のひきずり鍋」をつつき合い、締めのみつまぶしに舌鼓を打ちました。大学勤務時代に「黒い食べ物なんて食えるかよ！海苔も鰻も俺は食わねえぜ！！」と言っていた渡辺先生が、味噌仕立てで黒く煮詰まった鶏のすき焼きを何杯も何杯もおかわりしていたのが印象的でした。こちらのお店の鰻は名古屋にしては甘味の少ないタレでしたが、そのみつまぶしを食べながら、「しょっぱくて旨え！」という渡辺先生を見て、味噌カツも土手煮も甘くしてしまう名古屋の味付けに違和感を持っていた自分はやはり関東の人間なのだなあ、などとどうでもいいことに思いを馳せるのでした。また新制度になって複雑化した専門医講習の点数習得を巡って荻野先生と渡辺先生が仲睦まじく罵り合う姿を見たり、「君たち、耳鼻科に入ったらこんな高級外車にみんな乗れるようになるんだよ。」と渡来先生に入局勧誘されたエピソードを伺ったりしながら楽しく時を過ごしました。

入局後、数年しても外車になんか乗れないじゃないですかという荻野先生に渡来先生は、「ああ、あれはパパに買ってもらったんだよ。君もパパに買ってもらいなよ。」と答えられたそうです。

最後に、宴会を企画していた時からもっとフランクな会だと思っていた私はTシャツ出席。後で久しぶりに岩武先生に叱られました。





第 18 回耳鼻咽喉科手術支援システム・ナビ研究会を開催して

谷口 雄一郎

第 18 回耳鼻咽喉科手術支援システム・ナビ研究会を平成 28 年 10 月 21 日、神奈川県総合医療会館において多数の参加者のもと開催した。

本研究会は 1999 年に手術用ナビゲーションシステムの耳鼻咽喉科手術への臨床応用を検討する目的で「耳鼻咽喉科ナビゲーション研究会」として発足した。しかし、その後多くの手術支援機器が開発され耳鼻咽喉科領域に臨床応用されるようになってきたことから、手術支援という言葉の意味を機械や道具に限定せず、広く科学技術の進歩とその臨床応用を取り上げるという会の趣旨から、2008 年より現在の「耳鼻咽喉科手術支援システム・ナビ研究会」という名称に改められた。

今回は一般演題として 21 演題が集まり、手術術式の開発・教育を目指した手術シミュレーションシステムあるいは遠隔医療などの新しい分野の発表も多く、内容も多岐にわたっており本研究会のテーマの広がりが感じられた。特別講演は慈恵医大の飯村慈朗先生にお願いし、「内視鏡下鼻副鼻腔手術における手術器機の発展」について講演をしていただいた。慈恵医大は鼻科手術の歴史も古く、これまでの鼻科手術における術式の変遷と、シェーバーシステムやナビゲーションシステムの導入による安全性の向上、そして教育ツールとしての有用性について歴史的背景も含めてわかりやすくご講演いただいた。さらに本研究会の特徴の一つである機器展示は広々とした 1 階会議場で行われ、多くの参加者が熱心に最新技術を駆使した機器を手に取り見入っていた。

これまでの研究会は、歴代会長の努力により、地域文化にも触れるとともに学術講演などにおいて各大学の医師、手術支援機器の開発・臨床に携わるものに親睦の場が提供されてきた。今回も多くの参加者と活発な議論、また新たな支援機器の紹介などで研究会は大いに盛り上がり、今後の更なる発展が期待される研究会であった。

耳鼻咽喉科臨床学会賞を受賞して

春日井 滋

平成 28 年 1 月 27 日、名古屋で開催される頭頸部外科学会に参加のため新横浜駅に向かう途中、秘書の鈴木（旧姓北山）さんから連絡するようメールが届きました。駅に着き鈴木さんに連絡すると「教授に代わるね」と言われ、（なんだろう）と思っていると教授から「春日井、お前えらいな～」と突然言われました。その瞬間、本当に褒められているのか、それとも何かやらかしたのかドキッとしました。次に瞬間、「お前、耳鼻臨で論文賞とったで」と言われ、（え～っ）と自分でも信じられない思いでした。その日は新横浜駅で同行していたみんなからお祝いをしていただき、名古屋でも OB の先生方も数人加わりお祝いしていただきました。翌日の発表が朝早かったため、2 次会には参加せずホテルに帰りましたが、受賞の興奮のためか全然眠れませんでした。

話が少し逸れますが、私は昭和 50 年生まれ（現在 41 歳）で、今年の本厄の年です。医学部 5 年（24 歳）の厄年に扁桃周囲膿瘍になり入院したことがあったため、今年目標は「健康に気をつけること」にしました。厄年なのにこのような賞を受賞でき、むしろ健康が不安になるくらいでした。ちなみに今のところはいたって健康です。

6 月に鹿児島で第 78 回耳鼻咽喉科臨床学会が開催され、緊張しましたが無事に受賞講演を終えることができました。肥塚教授からは「何度も言うようだが本当に嬉しい」と言っていただき、こんな自分でも少しは医局に貢献できて良かったなあと嬉しく思いました。

今回このような賞を受賞できたのは、自分自身、本当にまぐれだと思っています。たくさん論文を書いても受賞しない人もいれば、初めて書いた論文で受賞する人もいるかもしれません。ただ 1 つだけ言えることは、論文を書かなければ絶対に受賞しないことです。論文を書くのは勤務時間外にするわけで、それなりに自分自身で努力しなければなかなか完成しません。しかし努力して完成させた論文が雑誌に掲載された時の喜びは何とも言えませんし、自分の書いた論文が引用文献にされているのをみたときは誇らしい気分さえなります。論文を書くことの大切さや喜びを教えてくださいました肥塚教授をはじめ諸先輩方に心より感謝いたします。また論文を書く大切さや喜びを今度は後輩へ指導していきたいと思えます。



日本宇宙航空環境医学会第 15 回研究奨励賞を受賞して

北島 明美

日本宇宙航空環境医学会は、人が宇宙などの特殊環境下におかれたときに生ずる問題点について研究する学会です。昭和 30 年に発足し、宇宙飛行士をはじめ様々な分野の専門家が集い意見交換をすることができます。この学会で受賞していただけたことは、幼少時より宇宙に憧れ目標としていた私にとって、本当に特別なことで、感慨無量でございました。思えば、小学校の卒業文集に書いた将来の夢は「宇宙のことを研究する科学者になりたい」でした。

この学会には、私が医学部 5 年生のときに、肥塚先生にお願いして推薦状を書いていただき入会致しました。もともと研究好きだった私は、医学部に入る前から基礎系に進もうと考えておりましたが、医学を学ぶうちに臨床にも興味を持つようになり、そして宇宙医学にも携れるようになりたいと切望し進路先を模索致しました。そして内科所属で研修医を終了したのち、耳鼻咽喉科へ入局し、以降前庭の研究を続けさせて頂いております。患者さんの訴えの中には、その時点では説明できない症状があったとしても、何一つ意味のないものはありません。不思議に思ったことは過去の文献を調べ、それでも分からない時は自分で研究し、答えを導き出します。この様に、患者さんから学ばせていただくことが多々あることにも医師、そして研究者になってから気づかされました。これまで様々な研究の機会を与えて下さった肥塚先生、臨床および研究をご指導下さった諸先生方に心から感謝申し上げます。大学での研究や論文執筆に関わらせて頂き、医局および同門会の皆様には大変感謝をしております。我々の研究結果を患者さんに還元し、宇宙滞在・帰還後のリハビリテーションにお役に立てますよう今後も精進して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

医局構成

平成 29 年 1 月 1 日現在

名誉教授	竹山 勇
客員教授	大橋 徹・加藤 功
教 授	肥塚 泉
准 教 授	岡田智幸・谷口雄一郎・晝間 清
講 師	赤澤吉弘・佐々木祐幸・田中泰彦・宮本康裕
助 教	春日井 滋 (医局長) 中村 学・三上公志・深澤雅彦 (国内留学中) 齋藤善光・藤田聡子・阿久津征利・加藤雄仁
任期付助教	明石愛美・井戸光次朗・望月文博・稲垣太郎 大原章裕・小野瀬好英・神川文彰・川島孝介
大学院生	四戸達也
非常勤講師	芋川英紀・岩武博也・大草方子・越智健太郎・小宅大輔 北島明美・木下裕継・工藤典代・劔持 睦・佐藤成樹・新谷敏晴 武田憲昭・中村 正・日比野 浩・堀井 新
登 録 医	及川貴生・高橋 姿
研 究 員	犬飼賢也・加藤弓子・山田善一
診療技術員	北林圭子・久保田恵子・久保田成美
医局秘書	秋山恵子
教授秘書	鈴木 愛
関連病院	麻生総合病院、稲城市立病院、川崎市立多摩病院、癌研有明病院、共立蒲原 総合病院、京浜総合病院、左近山診療所、島田総合病院、国立病院機構横浜 医療センター、総合高津中央病院、ソレイユ川崎、秦野赤十字病院、横浜甞 生病院、横浜市西部病院、横浜総合病院

(50 音順敬称略)

出張病院および外勤病院

病院名	赴任医師	電話	fax
西部病院	岡田 智幸	045-366-1111	045-366-1190
	中村 学		
	井戸 光次朗		
多摩病院	晝間 清	044-933-8111	044-930-5181
	藤田 聡子		
	阿久津 征利		
	大原 章裕		
横浜医療センター	佐々木 祐幸	045-851-2621	045-851-3902
横浜総合病院	田中 泰彦	045-902-0001	045-903-3098
癌研有明病院	新橋 涉	03-3520-0111	03-3570-0343
麻生総合病院	外勤医師	044-987-2522	044-988-0878
高津中央病院	外勤医師	044-822-6121	044-822-7995
稲城市立病院	外勤医師	042-377-0931	042-379-1310
共立蒲原総合病院	外勤医師	0545-81-2211	0545-81-2208
京浜総合病院	外勤医師	044-777-3251	044-777-7319
左近山診療所	外勤医師	045-352-4184	045-352-4183
ソレイユ川崎	外勤医師	044-959-3003	044-954-5581
横浜甞生病院	外勤医師	045-301-0533	045-303-5736

専門外来紹介

《めまい外来》 金曜 PM

担当医：肥塚 泉、三上公志、加藤雄仁、望月文博

2015年4月から、聖マリアンナ医科大学で働かせて頂いております望月文博と申します。昨年度に引き続き、肥塚先生はじめ4人の耳鼻咽喉科医が金曜日の午後に担当させていただいております。

いつも多くのめまい疾患患者様をご紹介して頂き感謝しております。私は慈恵医科大学医局でも聖マリアンナ医科大学に来させて頂く前に働いておりましたが、めまい疾患症例も多さ、また多種類の検査機械に非常に驚いた記憶があります。

中でも、平衡医学界で非常に注目されておりますV-HIT、VEMP検査機器がそろっており、内耳機能検査の精密さにかけては当院ならではの特色と感じております。

また、優秀な検査技師さんが3名いらっしゃることで他院では予約して行う検査も当日行えることで、患者様の負担も少なくすんでいるのではと思っております。

最近のめまい関連でのご報告ですが、昨年大学院を修了された阿久津先生が前庭神経炎症例での発表にてめまい平衡学会より学会賞を受賞されました。自分の事で恐縮ですが、ポスター賞も私、望月が受賞しております。

これら受賞につきましても、肥塚先生からの丁寧なご指導、諸先生方からの当院へご紹介頂くことでの豊富なめまい症例のおかげと深く感謝しております。

また、今年は新入医局員も6名おり、すでに1名めまい分野を専攻し大学院へ進学しております。

今後も、肥塚教授指導のもと、より良いめまい診療ができるよう努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。(望月文博)



《頭頸部腫瘍外来》 火曜 AM

担当医：赤澤吉弘、三上公志

頭頸部腫瘍外来は昨年に続いて赤澤と三上が担当しております。平成 28 年度からは新人が 6 名も入局したので、今後外来を担当する人数が増えるのではないかと期待しております。思えば 3-4 年前までは渡辺先生を含めた 3 名でやっていたなあ、と懐かしく感じます。

腫瘍班（喉頭も含む）の平成 27 年度の手術件数は 182 件と昨年よりもさらに増加しております。これも近隣の先生方からの御紹介によるものであり、この場をお借りしてお礼申し上げます。今年度も難易度の高い手術については癌研有明病院の新橋先生にお力添え頂いております。

最近、高齢化の影響か、80 歳前後の悪性腫瘍の方もみられ、頭頸部治療の難しさを感じております。今後の目標としては、新人教育をしながら頭頸部腫瘍診療の充実を図りたいと思っております。自身の研鑽および後輩指導に励んでまいりますのでご支援・ご指導の程宜しくお願い致します。（三上公志）



《喉頭・音声・嚥下外来》 水曜 AM

担当医：赤澤吉弘、春日井滋

専門外来は、毎週水曜日午前に赤澤先生と私の2名と非常勤として岩武先生に第1、3木曜日午前に来ていただいております。

平成27年度の喉頭分野における手術実績は顕微鏡下喉頭微細手術（LMS）60件、ELPS（endoscopic laryngo-pharyngeal surgery）6件、音声機能改善手術（甲状軟骨I型+披裂軟骨内転術）4件、誤嚥防止手術2件でした。LMSの件数は昨年に引き続き増加傾向にありますが、その中には喉頭乳頭腫の残存・再発のため同一の患者に何度か施行されたものも含まれています。喉頭乳頭腫に対する治療の難しさを改めて実感しております。

音声に関しては、LMSや音声機能改善手術前後でストロボスコープやGRBASスケール、MPT・MFRを評価しています。

ここ数年、専門外来は現役の医局員では赤澤先生と私の2人で頑張ってきました。今年度はまさかの6人も新入医局員を獲得することができました。今後は後継者の育成もしっかり行っていきたいと思っております。

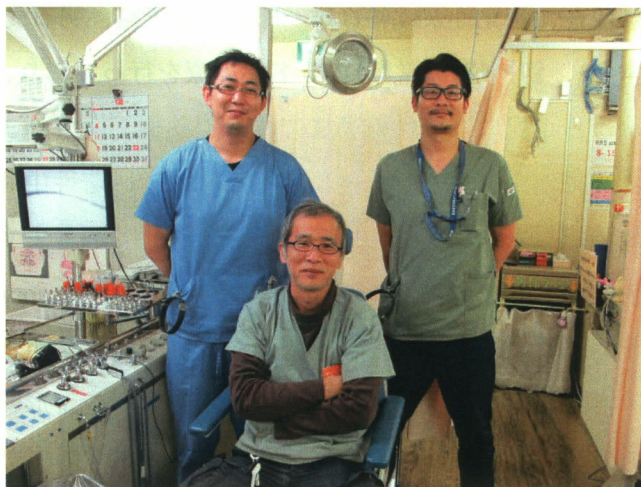
昨年の四門会誌でもお伝えさせていただきましたが、来年度（平成29年度）から後期研修医（医師3-6年目）は専門医を受けるにあたって、様々な手術などのノルマが課せられています。つまり後期研修医が増えればその分手術件数も必要です。また平成29年度は募集人員の制限はありませんでしたが、近い将来、手術数で募集人員の制限が設定されると思われるかもしれません。是非とも適応のありそうな患者様がいましたら、ご紹介いただけたら幸いです。（春日井滋）



《副鼻腔・アレルギー外来》 水曜PM

担当医：宮本康裕、齋藤善光、稲垣太朗、神川文彰

副鼻腔アレルギー外来は2016年4月より宮本康裕、齋藤善光、稲垣太朗（4月～9月）、神川文彰（10月～3月）の3人体制で行っております。外来は水曜日の14～17時の予定ですが、多数の予約患者様がいらっしゃる状況で17時過ぎまで外来診療を継続しており、患者様、外来スタッフには大変ご迷惑をおかけしております。また、紹介患者様には待ち時間等でご迷惑をおかけしており、紹介医の先生方にも大変申し訳なく思っております。この場をお借りしてお詫び申し上げます。



現在、スギ花粉に対するアレルギー性鼻炎に対してはシダトレンによる舌下免疫療法を行っており、今年度からはダニに対するミティキュアによる舌下免疫療法も開始しております。また、外来手術療法としては高周波凝固装置による下鼻甲介手術も適時施行しております。

2016年度の手術室での手術件数（2016/4月 - 2017/1月）は、鼻中隔矯正術：43件、下鼻甲介手術：25件、内視鏡下鼻副鼻腔手術（慢性副鼻腔炎／鼻腔腫瘍等含む）：82件、後鼻神経切断術：2件を行いました。内視鏡下鼻副鼻腔手術では前頭洞病変に対してはDraf type II/III、腫瘍を含めた上顎洞病変に対してはEMMM（endoscopic modified medial maxillectomy）による手術を施行しております。また、今年度から強い前弯を伴った鼻中隔彎曲症に対し、Hemitransfixion approachによる前弯矯正術も行うようになり良好な術後経過が得られております。

近隣の先生方のご紹介のおかげもあり、手術症例に関しては増加傾向を認めておりますが、まだまだ不足している状況です。鼻副鼻腔外来ではシダトレン／ミティキュア導入症例や嗅覚障害、その他の鼻副鼻腔疾患も受け入れておりますので、ご紹介をよろしく願います（直接鼻副鼻腔外来宛の紹介状でも全く問題ありません）。今年度も先生方が安心して紹介していただけるよう誠意ある医療を行っていきたく思っております。今後ともより一層のご指導・ご鞭撻をよろしく願います。

（齋藤 善光）

《聴覚外来》 木曜 PM

担当医：谷口雄一郎、宮本康裕、明石愛美、越智健太郎、木下裕継、釦持睦

現在、聴覚外来は谷口雄一郎、宮本康裕、明石愛美、越智健太郎(非常勤)、木下裕継(非常勤)、釦持睦(非常勤)の6名で診療を行っており、慢性中耳炎、中耳真珠腫などの手術症例から小児の遺伝性難聴まで幅広く診療しております。手術件数は紹介患者の増加に伴い徐々に増えており、今後は中耳真珠腫、癒着性中耳炎といった難治性中耳炎に対する外科的治療をさらに推進していきたいと考えております。術式としては外耳道後壁保存型鼓室形成術を基本とし、内視鏡を積極的に併用した approach を行っていくことで手術成績も向上しております。さらに内視鏡を用いた新しい手術法を積極的に取り入れ、内視鏡下でのアブミ骨手術をはじめ、外リンパ瘻、耳小骨奇形、小児先天性真珠腫などに対し経外耳道的内視鏡下耳科手術 (TEES) を行っています。また平成29年度より再生医療を応用した新しい治療法である『鼻腔粘膜上皮細胞シートを用いた鼓室形成術』を開始していく予定であります。特に中耳真珠腫、癒着性中耳炎が主な対象疾患になると考えておりますので、より一層のご紹介をお願いできれば幸いです。今後も、患者様により良い医療が提供できるよう努力していく所存でありますので、何卒より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。(谷口雄一郎)

2015年度 手術件数

鼓室形成術	32件
乳突削開術	18件
内耳窓閉鎖術	5件
鼓膜形成術	2件
アブミ骨手術	2件
顔面神経減荷術	2件
内リンパ嚢開放術	1件
外耳道形成術	1件

関連病院便り《横浜市西部病院》

部長：岡田智幸

主任医長：中村 学

任期付助教：井戸光次朗

西部病院です。

ご心配いただきました近隣先生方の信頼回復と共に収益は、各月ごと前年同月比 1.5 倍となりました。6 年前の水準に回復しております。特に、鼻手術のご紹介が増え、大変ありがたいです（右図、Ope 室での 3 人）。これからもよろしく願い申し上げます。



さらに院内の諸先生方のご心配も解消し、日々充実し、円滑に診療することが可能になりました。写真（下図左）は、西部病院医療スタッフのご心配が解消され、横須賀花火大会（8 月 6 日土曜日）時の納涼会で楽しく過ごした集合写真です。参加人数も忘年会並みに増加し、常日頃よりお世話になっているリウマチ内科柴田部長、整形外科大沼副部长、リハビリより ST さん、オペ室看護師さん（お子さんを含む）、薬剤師さん、西部病院採用の研修医の先生 3 名全員（研修医の先生の Tutor は私岡田と前述の柴田先生）、OB の鳥越先生、桑原先生、信清先生、昨年まで西部にいた田中先生、MR さん、総勢 45 名でした。ありがたいことです。

8 月 30 日に西部病院の Ope 室ラウンジの窓からの臨むことができた「希望の虹」を皆さんにお見せしてこの項を閉じたいと思います（下図右）。



関連病院便り《川崎市立多摩病院》

部長：晝間 清

今年の4月より川崎市立多摩病院耳鼻咽喉科に赴任いたしました晝間清と申します。私は、平成元年に千葉大学医学部を卒業し、千葉大学耳鼻咽喉科学教室に入局し大学、国立病院機構千葉医療センター、都立駒込病院を経て、このたび肥塚泉教授のご厚意で、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に入局、直ちに多摩病院を任されました。肥塚教授とは、ささやかな私のめまい研究を学会等で評価していただき、日本めまい平衡医学会の専門会員の推薦人にもなっていたのがご縁で現在のポジションを用意していただきました。3月に申し送りのために都内から小田急線に乗って多摩川を渡って登戸で降り、歩いてすぐの多摩病院を訪れた際には、不安な思いでいっぱいでしたが、前任の中村学先生にはとても親切に病院の現状を教えていただき、ホッとした気持ちになったのを今でも覚えております。その時にすでに多摩病院で働いておられた藤田聡子先生と大学から新たに多摩病院に移る予定の阿久津征利先生を紹介してもらいました。4月に入って、耳鼻科は1年目の小野瀬好英先生も加わり、現在の4人体制がスタートしました。去年までの2人体制から4人に増やしていただいたのは、肥塚教授が三宅学長に掛け合っていたいただき実現したと聞いております。建物は川崎市のもので、運営は聖マリアンナ医大であり、研修医を独自に育てることのできる施設です。久しぶりに大学人に戻り、やや責任重大なお仕事を引き受けてしまったなと思う反面、若い先生方から常に刺激を受け、若返ったような錯覚？を覚えることもあります。また新専門医制度では専門医1人を育てるために1年間にすべての領域にわたって一定の件数が要求されます。多摩病院に研修に来られる先生が、立派な耳鼻咽喉科専門医になれるように、培ってきた四半世紀の経験を活かしたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い致します。



関連病院便り《NHO 横浜医療センター》

部長：佐々木 祐幸

H28年3月いっぱいまで前院長（前帝京大学麻酔科教授）が定年退職され、4月から新院長（前横浜市大産婦人科教授）が引き継いでおられます。

外来日は月～金の午前8時30分～11時30分。H28年度から金曜日の手術日は大学からの外来診察医派遣を頂き、朝からの手術が可能になりました。H28年度は4月から川島先生に、7月から四戸先生に外来診察をお願いしております。1日平均20人程度の受診者数ですが、金曜日は意図的に外来予約数を絞っており、少ないときは一桁台の受診患者数です。H28年10月から、全受診日で紹介状無し・予約無しの新患を制限しております。入院数は昨年度の平均が約2人で変わらず、昨年11月から今年10月までの手術件数は計100件にわずかに届かず、主な内訳はESSが23例（34側）、扁桃摘12例、デビ11例、LMS7例です。

当地に出向してから7回目の冬を迎えておりますが、H22年度にリニューアルした当院の外観、内装、設備などはまだまだキレイです。原宿交差点付近の混雑状況に大きな変化はありません。センター北から第3京浜-横浜新道-国道1号線の通勤も40分～1時間と言うところです。心配していた嚥下内視鏡件数はあまり増加がなく少し安心しております。

外来看護師は1名ですが、曜日によりCブロック（耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科）担当の3、4名のうち、1名が交代でついています。医療事務（MA）の樋口は引き続き当科担当となっております。電カル操作等には習熟しておりますので代診の際は何なりとお申し付け下さい。

関連病院便り《横浜総合病院》

－3年ぶり3度目の勤務です－

部長：田中泰彦

平成28年4月より勤務となりました。以前との違いは1人常勤である事です。4月から他科に関しては、常勤医が増員され、活発に業務に当たっております。当院の位置づけは開業医以上、大学病院未満と認識し日々診療を行っております。よって出来る限り救急車は受け、他院、各科からの依頼にも迅速に対応するよう心掛けております。当科は3年前迄は一時期を除きほぼ2名常勤でした。現在は専門医研修施設ではありませんので、専門医受験資格の無い先生が複数年勤務ということは叶いません。早めに2名体制に戻り研修施設への復帰を目指せればと思います。久々の勤務で気付いた点は、紹介及び手術患者の減少です。近隣には昭和大学藤が丘病院、新百合ヶ丘総合病院があり、1名体制で対抗するには限界があるかとは思いますが、近隣耳鼻咽喉科医会への参加や紹介状の返信はその日のうちに欠かさず、複数回丁寧に報告する等心掛けています。このような環境下、毎月行っております獨協医大生理学瀬尾教授との共同研究には中々参加出来ず心苦しい思いです(研究予定を入れた場合、管理上前週には手術予定、入院患者も取れないため)。従って、中村先生にお願いする事が多くなり大変申し訳ございません。この場を借りて感謝及びお詫び申し上げます。また、4年前より地方部会嚥下委員として西山先生初め諸先生方ともお話をさせて頂く機会もあり多くの刺激を受けております。当院は8月から電子カルテへ移行しました。当初は戸惑いもありましたが、徐々に改善されており患者さんへ良い還元が出来ればと思っております。肥塚先生、齋藤先生、3年目の先生、医局員の先生方には外来含めお力添え頂き有難うございます。手術にお付き合い頂いておりますOBの先生方にも感謝致します。近隣OBの先生方にはご紹介頂き誠に有難うございます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

OB 通信 小さなこだわり

耳鼻咽喉科葛が谷こまクリニック 佐藤成樹

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科医局を辞し、開業してちょうど10年になりました。診療機器や器具、物品が満足に揃ってない横須賀市や瀬谷区の病院で工夫しながら働いた経験を活かして、というわけでもないのですが、自分のクリニックを開設する際に設備などで大きなこだわりはありませんでした。

そんな私でも、自分なりの「小さなこだわり」はあります。一例ですが、私の診療室の写真、自分から見て左側に診療ユニットがあります。機械屋さんからは「先生は右利きですよ、左利き用でいいのですか？」と聞かれましたが、それで良



いのだと設置しました。長年慣れ親しんだ西部病院の31番ユニットがこの形式だったのも理由の一つですが、もう一つ、右側ユニットだと患者さんの動線がライト側になるため診療を終えた患者さんが出て行く時に頭をぶつけることが時々あり、私としてはそれが気になっていたのです。ちょっと注意していれば済むことですが、まあそこが「小さなこだわり」というやつです。

小さなこだわりが診療をスムーズにしてくれることもあります。私のこだわりの一部は自分の経験からですが、同門の先輩、同僚、後輩が言っていたことが参考になっていることも多いのです。そういえば私がBPPVの運動療法をやるようになったのも、ある先輩が言った一言、「めまいの分野の人達は難しい研究やっているけど、結局治療はメイロン注射して飲み薬処方しておしまいでしょ」というのが一つのきっかけでした。

「こだわり」ではなく、「知恵」や「こつ」と言ってもいいかもしれません。そんなことは教科書や論文などには決して書かれていませんし、学会や研究会で聞くこともありません。同門の先生方との日常の会話から得ることが多いのです。そんなところも同門の一つの価値というか、有り難さだと思うのです。

OB 通信

鈴木 毅

ご無沙汰しております。会長より OB 通信寄稿のご依頼を頂きましたので、近況報告をしたいと思います。何をテーマにしようかと考えましたが、私の仕事のことなどを書いても面白くないので、10 数年ぶりに訪れた鈴鹿の旅行記を書くことにいたしました。なぜ鈴鹿を訪れたかという、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、鈴鹿サーキットで行われる F-1 日本グランプリを観戦するためでした。今やすっかりマイナーなスポーツとなってしまった F-1 ですが、80 年代のブーム時には、中島悟や鈴木亜久里などの日本人ドライバーが参戦していたこともあり、鈴鹿サーキットに 10 数万人の観客が訪れました。初めて鈴鹿サーキットを訪れたのはその頃で、私はまだ医局に在籍しており、医局の I 先生や T 先生とご一緒させていただきました。S 先生と 2 人で行ったこともありましたね。今回は小学生の愚息が、何かの時にテレビに映っていた F-1 を見て、ぜひ見に行きたいと言ったため鈴鹿に行くことにしました。

F-1 グランプリは、決勝は日曜日に行われますが、金曜日にフリー走行、土曜日に予選が行われます。私は金曜日にも土曜日にも当然仕事をしていますので、日曜日のみの観戦です。日曜日は午後から行われる F-1 の決勝レースの他に、午前中に様々なイベントが行われます。そのため日曜日は朝から観戦したいので、土曜日の仕事が終わってから前泊すべく出発しました。ただし、鈴鹿市内のホテルは、レース関係者でほぼいっぱいになってしまうので、鈴鹿に割と近く、ホテルの沢山ある名古屋に宿をとりました。日曜日の朝 7:30 に近鉄名古屋駅から急行に乗り、30 分で白子駅という駅まで行きます。そこから鈴鹿サーキットまで、三重交通のバスがピストン輸送していますので、これに乗車。あとは 15 分ほどバスに揺られるとサーキットに到着します。途中から道路が一般車通行止めになるので、ほとんど渋滞なく着きます。バス降車場よりサーキット入場口までの間に、F-1 関係の様々な土産物屋があり、そこに寄り道しながら入り口まで進みます。今回はチケットを入れるホルダーを買い、チケットを入れて、いよいよサーキットに入りました。鈴鹿サーキットは 7 年前に観客席等施設が改修されました。私は今回新しくなってから初めての観戦だったので、すべてがとても綺麗になっていて驚きました。F-1 グランプリは、メインレースはもちろん F-1 ですが、サポートレースと言って、前座のようなレースが開催されます。今回はポルシェカレラカップという、ポルシェをレース仕様に改造したワンメイクレースと、未来の F-1 ドライバーを目指す若手ドライバーが参戦するスーパー FJ ドリームカップレースが行われました。午前中に両レースを観戦した後に、午後からの F-1 に備えて腹ごしらえです。これも驚いたのですが、昔に比べランチのブースが大充実で、まあ B 級グルメなのですが、数十店が出店しており、松坂牛すじカレー、伊勢えびうどん、三重豚とん肉丼など色々と楽しいメニューで迷いました。昼食を済ませると、F-1 レジェンドマシンのデモンストレーションランがあり、ホンダとフェラーリの旧 F-1 マシンが 1 台ずつ走りまし

た。その後いよいよF-1の決勝となります。F-1は1チーム2人のドライバーが、それぞれの車で競います。現在11チームがエントリーしており、計22台でレースが行われます。今回はスタートとゴールラインがあるメインストレート手前の最終コーナーの観客席から観戦しました。午後2時から決勝がスタートしますが、22台のレーシングカーが、一斉にエンジン全開で爆音とともに走り出す所は、やはり圧巻でした。ただ、時代の流れで致し方ないことなのですが、自動車レースでもエコロジーを考慮して、燃費改善のために以前よりエンジンの排気量が小さくなり、エンジンの最高回転数の制限もあるため、昔のほうが音の迫力があつたように感じました。ともあれレーススタートです。F-1日本グランプリは鈴鹿サーキットを53周して順位を決めますが、1周を1分30秒程で周回するので、約2時間レースが続きます。久々の観戦でしたが、あっという間に2時間が過ぎレースが終わりました。今回の観戦席は、レース終了後の表彰式を間近に見ることのできるおまけ付きの席で、たっぷり楽しむことができました。来年はレギュレーションの大幅な変更で、久々にかつこのいい車が見られそうなので、また鈴鹿を訪れてみたいと思います。



OB 通信

姜澤えり子

ご無沙汰しております。平成 19 年 3 月に医局を辞めてから 7 年半が経ちました。同年 4 月に世田谷に開業しましたが、大きなトラブルなく現在に至っています。

開業した時は 39 歳でしたので体力・気力共に十分あり色々なことを乗り切ることができましたが、そのツケが回ったのかここ数年で腰椎ヘルニア、その後帯状疱疹、さらに頸椎ヘルニアと生命の危険を及ぼすものではありませんでしたが、疼痛と神経障害の疾患を連続して経験しました。頸椎ヘルニアの時は急激な発症で激痛と共に左肩甲骨、上肢、親指と人差し指の筋力低下を来した為、このまま麻痺が継続するなら OPE の可能性ありと伝えられた時はかなり落ち込みました。幸い徐々に筋力は回復し OPE は回避することができましたが、その後から診察の際にかがむ姿勢を極力避け、休みの日は YOGA や PILATES でコンディショニングするように生活を見直しました。最近、椎間板ヘルニアは遺伝的要素が指摘されているようですが、そういえば小さい頃父親が自宅の壁にベルトを引っ掛けて仕事の合間に首を牽引していたのを思い出しました。こんな所が似てしまうなんて親子だな、と感慨深くなりましたが、何となく父親には自分も椎間板ヘルニアになった事は今でも言えずにいます。

今年から新専門医制度となりましたが、私の場合更新時期が平成 29 年 3 月のため、この 1 年間で単位を習得しないと更新できなくなります。当初は単位が習得できる学会も明らかになっておらず振り回されている印象が拭えませんでした。春から手当たり次第に学会に参加したところ、年賀状のやり取りのみになっていた諸先輩たちにお会いできてその点は良かったと思えました。同門会の出席もここ数年ご無沙汰しておりますが、学会や講演会でお会いできることを楽しみにしています。

OB 通信 近況報告

齋藤 晋

すっかりご無沙汰いたしまして、申し訳ありません。現在、私は府中市の府中恵仁会病の向かいにある耳鼻咽喉科クリニックに勤めています。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、この病院は以前に聖マリアンナ耳鼻咽喉科学教室から耳鼻科医師が派遣されていたそうです。クリニックでは、その病院を利用させていただき突発性難聴や顔面神経麻痺の患者さんの入院、また手術室で鼻手術なども行っています（昔はあまり楽しくありませんでしたが、今はたまにやると非常に楽しいです）。また時々、他科より入院患者さんの嚥下評価をお願いされるのですが、本当に自分ごときが行ってよいのやら困惑の中で評価をしています。

大学の医局を辞めてから 3 年ほど経ちましたが、最近非常に思うことは「なぜもっと勉強しなかったのだー！」につきます。他に耳鼻科の医師もいないので質問することもされることもありません。数か月に一度、定期的に聖マリアンナ耳鼻咽喉科学術集会・懇話会（通称オヤケ会）を居酒屋で行っていますが、いかんせん次の日には記憶がなくなってしまいます。大学病院で勤務しているあいだに色々な患者さんを見て色々勉強をしたほうがよいです。これホントです。

ただ今、医学の勉強はしていませんが長女が高学年になりそろそろ勉強をやり始めました。そこで自分が社会科担当となり教えています。今になって野菜の名産地や世界遺産、日本の歴史などを勉強すると意外に楽しいですよ。例えば大阪の門真市は電気機械工業が盛んです。なぜなら門真市には松下電器（現パナソニック）の本社があるからです。なぜそんな所に置いたかという門真市はその名の通り京都からみて鬼門の方角であり縁起が良くなく土地も安かったそうです。そこに目をつけた松下幸之助が大阪市に近い門真市に大きい工場を作ったのが始まりだそうです。なかなか興味深くありませんか。それでは末筆ながら、ますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

（写真左） 聖マリアンナ耳鼻咽喉科学術集会・懇話会（通称オヤケ会）の様子

（写真右） 目黒の寄生虫館にて



OB 通信

鈴木一輝

皆様おひさしぶりです。服部先生から原稿の依頼があったので今年の夏休みについて書こうかなと思います。

私には現在小5、小2、年中の3人の娘がおります。娘達は赤ちゃんの頃から色々な所へ連れ回しているのですが、今年の夏休みはかなり遠い所へ行っても大丈夫と妻が言い出し、北欧まで行くことになりました（私のビーチでノンビリ案は却下）。

かなり安いツアーでしたので、飛行機はトルコ経由の便でした（テロが怖かったですが安さに負けました。5人だと金かかるんですよ）。デンマークについたら、地下鉄に乗り、地元の遊園地へ行きました。北欧はカード社会のため、駅の切符から、遊園地の入場券まですべてカード払いでした。電車は特に改札もなく、ホームで切符を買って乗り込みました。出口でチェックでもされるのかなと思っていたら何もなく、そのまま外に出られました。タダで乗り放題？買わなくてもよかったのかなと思いましたが・・・（後日聞いたところ、ヨーロッパは大体そうで、たまにチェックが入り、その際は問答無用で高額な罰金が科されるとの事でした）。翌日は人魚姫の像などをみて、午後には船に乗り、ノルウェーへ向かいました。船中泊でしたので、子供達はおおはしゃぎで、船内のプールに入り、2段ベッドで跳ねまくり、デッキで走り回っておりました。翌日オスロに到着。市内観光したら、今度はすぐにバスに乗り、今回のメインであるフィヨルド目指して出発です。なんと5時間・・・。私はバスに弱くほぼ倒れていました。夜に到着し、翌日フィヨルドへむかいました。観光電車に2時間ほどのり、フィヨルド到着。そこでクルーズを楽しみました（唯一ノルウェーで困ったのはトイレが有料ということで、そこもカードでした。）翌日は再度5時間かけてオスロへ。そこでムンクの叫びをみたら、今度は電車で5時間かけてスウェーデンへ移動しました（本当はムンクさん人形が欲しかったのですが、見つけれず・・・わかるひとにわかればよいくだりです）。翌日ストックホルム観光したら夕には飛行機で帰国しました。

かなり忙しいツアーでしたが、妻と子供達が元気に楽しんでくれて良かったです。本当はもっとノンビリしたいのですが、家族が元気すぎて当分できそうもありません。来年はどこに連れていかれるのか、今から心配です。



OB 通信 近況報告

山口央一

千葉県茂原市に拠点を置いて二年ほど経ちました。駅から車で10分ほどの上茂原診療所で耳鼻咽喉科を始め、最近ようやく落ち着いてきたと感じております。

茂原は、東京駅から総武線あるいは京葉線に乗り、千葉を経由して外房線を使い約一時間、あるいは車でアクアラインから圏央道を通って約一時間のところにあります。駅前やバイパス沿いには、ショッピングセンター、ホームセンター、自動車販売店、ファミレスなどが点在しており、よくある地方都市といったところでしょうか。

診療所には、内科、外科、整形外科など以前からの診療体制もあり、耳鼻咽喉科が落ち着いているときなどは、そちらの方の診察をすることもあります。内科的な診察、外傷の処置など、研修医のころや夜間急でのことを思い出しながら診療しています。

茂原は、外房の玄関口にあたり、歴史的にはパツとしないところですが、茂原、大多喜周辺には古来、天然ガスが湧出しており、明治時代から、大多喜ガスという会社が東京ガスのかわりのインフラとなっています。県別天然ガス生産量は2番目に多く、今でも井戸水からは、ヨード（水溶性天然ガスに含まれる）を含む茶色い“燃ゆる水”が出てきます。燃えるかどうか試したことはないですが。また、近くを流れる一宮川が増水して、冠水の被害が出る地区もありますが、概ね落ち着いた土地です。

そのようなところですが、ゴルフ、サーフィンをする人にとっては、魅力的なところなのではないでしょうか。週末は、ゴルフ場に行く人、海に行く人で外房線や小湊バスが非常に混雑しています。残念ながら、僕はどちらにも縁がないので、非常にもったいないのかもしれませんが、近くを通りかかったことがある方もいらっしゃるのではないかと思います。

房総にお越しの際はぜひ、“チーバ君”や“モバリん”に会いに来て下さい。

第 20 回四門会理事会議事録

1. 会員数内訳（平成 28 年 12 月 1 日現在）
総会員数：131 名
うち現医局員：25 名
2. 会員異動
矢野 裕之 平成 28 年 3 月 31 日 退職
(喜多見やの耳鼻科)
3. 新入会員
ひるま きよし 平成 28 年 4 月 1 日 入職
晝間 清
いながき たろう 平成 28 年 4 月 1 日 入職
稲垣 太朗
おおはら あきひろ 平成 28 年 4 月 1 日 入職
大原 章裕
おのせ よしひで 平成 28 年 4 月 1 日 入職
小野瀬 好英
かみかわ ふみあき 平成 28 年 4 月 1 日 入職
神川 文彰
かわしま こうすけ 平成 28 年 4 月 1 日 入職
川島 孝介
しのへ たつや 平成 28 年 4 月 1 日 入職
四戸 達也
4. 退会会員 なし
5. 会計報告（平成 27 年 10 月～平成 28 年 9 月）
裏面参照
6. 平成 28 年度役員人事
会 長 岩武博也
副会長 渡来潤次、服部康介
顧 問 竹山 勇、加藤 功、大橋 徹
推薦理事 肥塚 泉
理 事 岩澤 寛、芋川英紀、上杉恵介、
越智健太郎、勝見直樹、木下裕継、
黒田寿史、倉田久美、釧持 睦、
小松崎 靖、佐久間 惇、佐々木祐幸、
佐藤成樹、新谷敏晴、スミス馨子、
南 定、宮部 聡、宮本康裕、
谷口雄一郎、渡辺昭司（50 音順）
監 事 飯田 順、岡田智幸
事務局長 春日井 滋
・岩澤 寛先生が今年度で理事を定年。
・平成 29 年度から晝間 清先生と赤澤吉弘先生、田中泰彦先生が新しい理事として岩武会長より推薦され承認。
7. 四門会賞
春日井 滋
北島明美
8. 平成 30 年度耳鼻咽喉科臨床学会主幹（第 80 回）
期間：平成 30 年 6 月 28 日～6 月 30 日
場所：パシフィコ横浜
9. 平成 29 年度四門会日時
日時：平成 29 年 11 月 26 日（日曜日）
場所：聖マリアンナ医科大学
10. その他
・同門会より 29 年度も新入医局員勧誘費として 30 万円寄付していただくことが承認。
・平成 30 年度耳鼻咽喉科臨床学会主幹（第 80 回）にむけて、平成 29 年 6 月頃より寄付金を募る旨を岩武会長から説明。
・住所録についてパスワードを用いたメールなどによる管理という案がでたが、最終的には現状通り手紙あるいは FAX で行うこととなった。

平成27年10月～平成28年9月

平成26年度繰越金	¥3,779,666	
	収入	支出
平成26年度会費	¥1,020,000	
四門会誌第23号印刷費		¥153,821
秋山・北山日当		¥20,000
通信運搬費		¥56,220
慶弔費		¥67,770
勧誘費		¥300,000
総会懇親会費(アスカ)		¥117,000
特別講演(謝金・交通費)		¥110,000
振込み手数料		¥216
利息	¥308	
	¥1,020,308	¥825,027
次年度への繰越金	3,974,947	


監査報告

平成28年9月30日

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室
同門会(四門会)
会長 岩武 博也 殿

飯田 順 

監事

岡田 智幸 

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室 同門会(四門会)平成27年度収支決算に関する
証拠書類を慎重に審査しましたところ適正であることを認めます。
また、会務は適切に施行されていることを認めます。



聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科 第20回四門会 2016年12月4日 京王プラザホテル

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条（名 称）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

第2条（事務局）

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条（目 的）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条（事 業）

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条（会員）

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条（会員の入退会手続）

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

第7条（会 費）

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

第4章 役員

第8条（役員）

本会は会長1名、副会長2名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条（役員の任期）

- （1） 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- （2） 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- （3） 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条（役員の職務、権限）

- （1） 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- （2） 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- （3） 理事は理事会を構成し、会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- （4） 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- （5） 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条（役員を選任）

- （1） 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。
- （2） 理事の中に推薦理事と顧問を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授を推薦理事とする。また、教授退任後は顧問とする。
- （3） 会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会議

第12条（総会）

- （1） 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- （2） 総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- （3） 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- （4） 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- （5） 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条（理事会）

- （1） 理事会は会長がこれを召集する。
- （2） 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- （3） 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。

- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条 (事務局)

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条 (本会の経費)

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章 会則の改正

第17条 (会則の改正)

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条 (その他)

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条 (本会則の発効)

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月3日から発効する。

本会則は平成16年11月28日から発効する。

本会則は平成18年12月3日から発効する。

本会則は平成24年12月2日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

(1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。

- ・ 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額 5,000 円
- ・ その他の会員は年額 10,000 円

(2) 70 歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第 3 条 (役員を選出)

- (1) 役員の定数は、理事 15 名以上、監事 2 名とする
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授は会長を兼任できない。
- (5) 会長は聖マリアンナ医科大学卒業生に限る。
- (6) 会長、副会長の任期は 3 年 2 期までとする、ただし再任は防げない。
- (7) 役員は 65 歳で定年とする。

第 4 条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第 5 条 (本細則の発効)

本細則は平成 9 年 12 月 1 日から発効する。

本細則は平成 11 年 11 月 28 日から発効する。

本細則は平成 12 年 12 月 3 日から発効する。

本細則は平成 16 年 11 月 28 日から発効する。

本細則は平成 17 年 12 月 4 日から発効する。

本細則は平成 22 年 12 月 5 日から発効する。

本細則は平成 27 年 11 月 29 日から発効する。

《編集後記》

2 月中の発行を目指しておりましたが、1 ヶ月以上遅れましたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

平成 28 年度は医局開講 45 周年記念および教授の還暦のお祝いなどおめでたい行事が多い年でした。また新入医局員が 6 人も入局という喜ばしい年でもありました。医局員の数はもちろん大切ですが、医師としての質はそれ以上に大切です。良き耳鼻咽喉科医の育成のために、また医局の発展のために、四門会の先生方には益々のご協力およびご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

皆様の健康と益々のご発展を祈念しております。 (春日井 滋)

